

狂句を作ってみませんか

鹿市医狂壇 選者 | 樋口 一風

【一】 薩摩狂句とは

社会風刺や人間諷詠を鹿児島言葉を使い、5・7・5の音字で、皮肉味とユーモア（狂句味）を交えて、表現する郷土文芸であります。

薩摩狂句が生まれたのは、明治41年6月、現在の南日本新聞の前身である、鹿児島新聞の朝刊に掲載されたのが始まりだと言われているので、116年の歴史があります。当時の狂句は、くすぐり・駄洒落・下品・卑猥・そして弱者を哄笑したり、罵倒するものが多かったようで、例えば

瘡病者がどっさい蠅をば連れっ来っ 可笑
 というような、弱者を罵倒するような句がありました。

大正初期になると、

木強者刀ん先で髭を剃っ 森 艶亭
 というような名句も生まれております。

薩摩狂句は川柳と同じで、5・7・5の定型で季語の必要はなく、「人間諷詠」の詩、「人間批判」の詩です。例えば、

(女性心理)

泣っかざい泣たや鏡の前へ坐っ 風雲児

(風俗事象)

裏小路も裏小路ないの新春が来っ みのる

のように、人の気持ちとか、家庭や社会で起きたことを詠みます。つまり人間を素材にして、滑稽味・皮肉味・穿ち味・真実味など、いわゆる狂句味と言われるものを加えて、鹿児島の方で、17音字にまとめたものが薩摩狂句です。

【二】 薩摩狂句の作り方

音字の数え方について

上 5 中 7 下 5
 真夏日も 墓ん造花は しゃんちしっ

この句は、17音字ではないのでは、と考える人がいるかも知れませんが、次のように読んでみてください。

1 拗音（ようおん）

拗音は、2字で1字と数えます。拗音とは、「ゃ」「ゅ」「ょ」または、「わ」などを、下に小さく書き、上の音とほとんど同時に発する音です。

焼酎（しよ ちゅ）= 2音字

社長（しゃ ちよ）= 2音字

火事（くわ し）= 2音字

ファ イ ト = 3音字

琉球（りゅ う きゅ う）= 4音字

2 撥音（はつおん）

撥音は、撥ねて発する音で、「ん」と書き1字に数えます。

新聞（しん ぶん）= 4音字

花見（はな ん）= 3音字

3 促音（そくおん）

促音は、つまって発する音で、小さく「っ」と書き、1字に数えます。

発車（はっ しゃ）= 3音字

一発（いっ ぱつ）= 4音字

4 長音（ちょうおん）

長音は、長く引いて発する音を表し、「一」は1字と数えます。

フェリー フ¹エ¹リ¹ = 3音字
 コーチ コ¹ チ¹ = 3音字

5 助詞の使い方

鹿児島弁の特徴は、短く縮めて言う場合が多くあります。

例えば「駅に」と言う場合「駅^えき」。「山に」と言う場合は「山^やめ」というように、下につく助詞が変化します。

妻^{かか}に → 妻^かけ
 其^そ処^こに → 其^そ処^こけ
 学校^がに → 学校^がけ
 見事^みに → 見事^みつ

これらは一例であり、多くの使い方があるので、使い方に慣れることが大事です。

6 鹿児島弁のなまり方

鹿児島弁は名詞や、動詞、形容詞などの語尾が微妙に変化する場合が多いです。

次はそのうちの幾つかの例です。

(1) 名詞の場合

(イ)「き」が「つ」に変化。 敵→てっ

月, 沖, 滝, 秋, 時, 雪, 茎, 槓, 関, 席

(ロ)「の」が「ん」に変化。着物→きもん

漬物, 吸物, 若者, 焚物

(ハ)「あい」が「え」に変化。挨拶→えさっ

愛想, 相手

(ニ)「り」が「い」に変化。祭り→まつい

針, 光, 槍, 栗, 蟻, 有り, 森, 借り

(ホ)「み」が「ん」に変化。 耳→みん

網, 海, 墨, 神, 髪, 畳, 鋏, 霞, 刺身

(ヘ)「る」が「い」に変化。 昼→ひい

車, 猿, 樽, するめ

(ト)「たい, だい」が「て, で」に変化

鯛→て

大工, 太鼓, 大黒柱, 大根, 大切, 大事, 台

(チ) 語尾が促音「っ」に変化。

旅, 足袋, 土, 右, 道

(2) 動詞の場合

語尾が「っ」に変化。 降る→ふっ

拭く, 噴く, 貼る, 研ぐ, 飛ぶ, 吐く,
 折る, 居る, 剃る, 減る, 漕ぐ, 突く
 行く, 食う, 泣く

(3) 形容詞の場合

「い」が「え」に変化。

多い, 遠い, 強い, 早い, 青い, 弱い

「ない」が「ね」に変化。

少ない, 危ない, 元気がない

「い」が「れ」に変化。

暗い, 黒い, 辛い

(4) 「う」が消える

名詞 焼酎 (しょちゅ), 社長 (しゃちよ),
 学校 (がっこ)

動詞 背負う (かる), 迷う (まよ),
 貰う (もろ), 笑う (わる)
 買う (こ), 食う (く), 縫う (ぬ)

以上のように鹿児島弁はなかなか複雑に構成されています。

【三】 狂句味とは

徒^{はしいぐら}競^{ことし}走^げ今年も孫は後尾つ走っ

というような句を読まして貰っても、「ああそうですか」としか言いようがありません。作者は面白いと思って作ったのですが、それが表現されていません。これを徒^{はしいぐら}競^{ことし}走^げ後尾^{げっ}で走って手^てどん振^ふつとでもしたら、足は遅いが愛嬌のある孫の状況が良く分かります。

薩摩狂句には狂句味が必要条件である。

狂句味とは、滑稽味・皮肉味・穿ち味・真実味のことを指します。

1 滑稽味の句

背中もおっぱいが欲し双子ママ 佳笑
 気を付け言ながい我がが転倒けっ 雪ん子
 などのように、最初の句の、双子のお母さんは忙しいのです。二人同時にぐずられて困っているのを見て、背中におっぱいがあると楽だろうと思ったという句です。ありえないことですが発想が面白いです。

次の句はよくあることで、滑るから気を付けて歩けと他人に注意して、自分が転んだという句です。ご本人は痛かっただろうが、傍の人には面白い光景でした。真面目にしているにも拘わらず「おかしい」というのが、ユーモア、即ち滑稽味です。

2 皮肉味の句

鹿児島弁では「当て擦い」とも言います。遠まわしに意地悪く弱点などをつくことです。狂句の神髄とも言えます。

写真撮いそん顔で良か念ぬ押っ めだか
 自称美人に、写真を撮るが、お化粧をしなくて、すっぴんで良いかと念を押したという、自称美人の面子は、丸つぶれの皮肉たっぷり

若こ見すち似合わん派手なアロハシャツ 天然
 ダンディーを自認しているおじさんは、年相応のアロハシャツを着たつもりでしたが、他人にはいかにも無理な若作りに見えたという句です。

3 穿ち味の句

狂句でいう穿ちというのは、「穴をあける」とか「ほじくる」とかいう意味より「うちを見、奥を見、本質を見る」というような意味だろうと思います。つまり、「世態人情の機微を看破し、洞察する」ことです。だから、穿ち味の句というのは、人間の肺腑を衝くような句です。

横杵翁と語つみたなあ馬が合っ 遊月

鹿児島では偏屈な人を、横杵よんごぎねと言います。風評で横杵と言われる人と話してみたら、意外にも意気投合してしまいました。ということは、私も横杵なのだろうか、自問自答している句です。

思春期ん娘あ扱ご難き不器用親父 三鶴
 他人には、真面目なだけが取り柄の父親は、年頃の娘の扱いには手を焼いているという句です。

4 真実味の句

真実というのは、「まこと」「偽りのないこと」ですが、薩摩狂句でいう真実味は、「人間味」「人情味」です。ただ単に「事実」を詠んだのではなく、真実の句には、人の心に訴えるもの、人をほろりとさせるものがなければなりません。

好かん人も会わにや会わんで気い掛っ 一天
 「碁敵は憎さも憎し懐かしし」という句が川柳にあります。まさに、このことでしょう。待ったでもしたか何か些細なことで、喧嘩別れした友達も、日が経つと、どうしているかなと気になるものです。

新天地飯しゃ食たろかい心配な婆 幸子
 新卒の新人サラリーマンになった孫は、都会で飯をちゃんと食っているのか、おばあちゃんは心配でたまらないという句です。

妻けやっど有難言えた五十年目 三ちゃん
 日本人、特に薩摩の男は奥様に「ありがとう」などは、気恥ずかしくて思っただけなかなか言えません。

この人は、清水の舞台から飛び降りるような気で、やっど「五十年ありがとうね」と、言えました。まずは、めでたしめでたしです。

【四】 時事吟

テレビ、新聞、ラジオなどのニュースになるような社会の出来事を詠んだ句が時事吟です。

事実をそのまま伝えたのでは、狂句とは言えません。時事吟の肝は、批判することであると思います。

皮肉味を趣旨とする狂句には打って付けの句材だと思います。但し時事吟は短命です。時が過ぎると忘れ去られてしまいます。

例えば、

一強が負けつ政治が揉めでけつ

四面楚歌け一人で粘い兵庫知事

不安なこつ有事拠点ぬ受託た知事

など、世相をずばりと切るのが時事吟の本旨です。

【五】薩摩狂句の条件

- 1 鹿児島を主体にして表現する
- 2 狂句は人間が素材である
- 3 狂句味を盛り込む
- 4 形式は、5音、7音、5音の、リズム感のある17音字にまとめる

○擬人化

人間諷詠の文芸ですが、動物や植物、その他の自然を詠みたい時は、それを擬人化（人間に例えて詠む）します。

桜島ん灰も暑せ疲れたかびたつ止ん

と「灰も暑せ疲れたか」と擬人化して詠んでいます。

頬杖付っ休くっじょいよな臥龍梅

と臥龍梅を人間が休んでいるようだと表現しています。

これを擬人化と言います。

○リズム感

（三段切れ）

口喧嘩弁当んおかず梅だけ

と5、7、に助詞がなくポツンポツンと切られています。これを三段切れと言ひ、句がぎくしゃくして流れが良くありません。

ここまで読むと、初心者には難しいような

条件ですが、以上のような条件を念頭において指を折ってみてください。

薩摩狂句は、鹿児島弁の5・7・5で綴る壮大なドラマです。

お願いとしては、人間を尊び、軽蔑や侮蔑しない上品なユーモアを詠み込んでください。

直ぐに慣れます。鹿市医狂壇では添削して掲載しますので、初心者でもご遠慮なくご投句ください。

参考文献 三條風雲児著 薩摩狂句
MBCラジオ 薩摩狂句の作り方